

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

中日病院			
【地域において今後担うべき役割】（P5）			
<p>病床機能としては急性期を維持し、名古屋医療センターや名城病院などから急性期治療を終えた後の患者受け入れを継続する一方、特に在宅復帰に向けた機能の充実を図っていく。そのためにリハビリスタッフやソーシャルワーカーの採用、ケアマネとの連携、療養病棟で「在宅復帰機能強化加算」の取得、在宅復帰率の目標値設定などを検討する。</p>			
【今後持つべき病床機能】（P5）			
<p>今後迎える超高齢社会では、若ければ外来で済むような疾患でも入院が必要とされるケースが増える。肺炎や脱水症、圧迫骨折などへの対策も重要で、ポストアキュートの患者を受け入れて在宅復帰に導いたり、他機関への橋渡しをしたりする必要性はますます高まるといえるだろう。在宅復帰のほかに療養病床への転床、老人保健施設や老人ホームへの転院などにも対応し、多様な入院患者に対応していく病院になるべきと考える。時には終末期をも担当することも重要になるだろう。</p>			
【今後の方針】（P6）			
	現在 (平成 28 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期			
急性期	4 2		4 2
回復期		→	
慢性期	5 1		5 1
(合計)	9 3		9 3
【その他の数値目標】（P7）			
医療提供に関する項目			
・病床稼働率（一般、療養とも）	現行 90%超	→	現状を維持
・手術室稼働率	現行 25%	→	現状を維持
・紹介率	現行36%	→	現状を維持
・逆紹介率	データなし		
経営に関する項目			
・人件費比率	現行 60%	→	60%未満へ
・医業収益に占める人材育成にかかる費用の割合	現行0.1%	→	0.2%へ